

関が住民に対する周知宣伝が足りないのではないかと思われる。

建築確認とは、自分の住む家、使用する建物が構造、防災の面から安全かどうか、又はその用途が近所から苦情が出たりしないような地域かどうかを建築主事に確かめさせることを目的とするもので、いわゆる自分や家族の生命、財産を守るための自衛手段として必要なものであるというような点を、繰り返し、民衆の納得する宣伝を行なうべきではないだろうか。

### 都市計画

## 都市化をすすめるために

経済の著しい発展に伴ない産業及び人口の都市集中化は甚だしく益々その極度を加えている現状である。昭和四〇年の国の人口は九、八三〇万人、これに対し市街地人口は四、七二六万人の四七・七〇％であるが、二〇年後の昭和六〇年には推定人口一億一、六五〇万人に対し市街地人口は九、三〇〇万人にも達するものと予想されている。

昭和四〇年の市街地人口五八万三千人が昭和六〇年には八九万六千人に達し五三・〇％の増加となり、農村地域の人口が減少し都市への人口集中は必須である。一方産業や人口の都市集中は交通需要の増大となり道路交通の混乱、住宅難、通勤通学難、用水不足、生活環境の悪化を誘発し都市機能を麻痺させる。特に道路交通の増大は著しく熊本市の場合、自動車保有台数は昭和三七年に一三、八七二台が昭和四〇年には二六、五三八台で二倍に達し交通量は国道三号線緑川橋地点で一六、三〇〇台、市内長六橋で二七、五〇〇台、大甲橋で二九、五〇〇台といずれも昭和三七年時より一・五倍、二・五倍の激増振りである。このように都市

情勢は大きく変動し発展しているのに対して対応できる都市機能の整備が必要であり、このため地域地区の指定による土地利用の高度化、街路、下水道、公園等の都市施設の計画化、事業化が急務となる。昭和四一年度は、八代市、宇土市の街路計画の全面改訂、用途地域、防火地域の新たな指定を行ないまた熊本市の都市計画全般についての再検討に着手し、四二年度中に再編成を行なう計画である。また、その他の都市についてもそれぞれの都市の特性と社会経済情勢に相応して都市計画の改訂又は策定を行なうよう進めている。

### 街路の整備

政府は昭和四二年度を初年度とする昭和四七年度までの新道路五カ年計画を策定し街路五カ年計画として昭和四一年度までの整備率一六・四〇％を昭和四六年度には二二・五〇％まで引上げ新五カ年計画の規模を一兆一、二〇〇億とすることとした。

事態に対応するための必要な街路の緊急な整備を行なう。

3. 地域開発の拠点となる都市において、その産業基盤となる重要幹線の整備を行なう。更にこれらの事業を実施するにあたり、社会環境を改善するために必要な街路をあわせ整備する。

としており計画の規模を眺めてみても、まだまだ大都市中心計画がうかがわれる。

これに伴ない本県の新街路五カ年計画の規模は五六億四、〇〇〇万円、昭和四一年度までの整備率二二・九〇％を昭和四六年度において二八・五〇％まで引上げることとされた。

市街地人口の伸び

都市名	昭和40年		昭和60年	
	行政区域人口	市街地人口	行政区域人口	市街地人口
熊本市	407,052	320,000	550,000	480,000
八代市	102,511	58,000	196,000	141,000
人吉市	44,831	38,120	54,690	48,000
荒尾市	60,618	39,114	73,950	55,500
水尾市	45,296	30,588	55,603	39,865
玉名市	45,298	26,405	55,263	31,772
本渡市	39,790	14,965	48,543	27,260
山鹿市	32,670	14,358	23,000	14,400
牛深市	30,995	16,175	16,175	14,975
菊池市	31,909	9,311	38,930	16,332
宇土市	31,829	8,057	38,500	27,333
計	872,799	583,901	1,150,654	896,437

1. 本県の都市計画街路延長	399,280M(A)
2. 昭年41年度までの整備延長	91,770(B)
	(B)/(A)=22.9%
3. 新5カ年計画による整備延長	22,309M(C)
	(B)+(C)/(A)=28.5%
4. 新5カ年計画の規模	
産業都市	4,871百万円
地方都市	768百万円
計	5,639百万円

これは昭和四一年度街路予算六億一、八〇〇万円に対し毎年約三〇％づつを増加していくこととなる。

### 主要幹線街路の整備計画

新五カ年計画の昭和四六年度まで、県内主要幹線街路の整備を次のように行なう計画である。

#### ◎二本木小碓線(熊本市)

幅員二二・四メートル一六・四メートル二四・三〇メートル末改良区間全区間を完成させる。これにより国道三号線世安町から南熊本、白山町を通り国道五七号線に連絡する熊本市の中環状線が完成することとなる。

◎新市街中の瀬線(県道熊本浜線)熊本市幅員二〇・四メートル全線を完成させる。この路線は現在の熊本浜線の付け替え路線で南熊本駅の南側に国鉄豊肥線と立体交差し、中の瀬に至る新路線で市街地間を街路事業で、郊外区間を道路事業で施行し交通緩和をはかる。



#### ◎熊本市小島線(県道熊本玉名線)熊本市

幅員一六・四メートル七〇〇メートル田崎陸橋地点から熊本総合市場前までの区間全線の改良を完成させる。この路線は砂取小学校横から新県庁舎前を通り東熊本、バイパスを交差して、自衛隊前に至る路線で熊本市の東部開発中心路線である。

#### ◎新市街水前寺線 熊本市

幅員三六・四メートル一、三九〇メートル大甲橋から砂取小学校前までのうち未改良区間である大江地区、水前寺地区の改良を促進するもので、熊本市の東西を貫く大動脈線が極力完成をはかる。

#### ◎砂取健軍線 熊本市

幅員二二・四メートル一八・四メートル延長一、九一〇メートル全線の改良を完成させる。この路線は砂取小学校横から新県庁舎前を通り東熊本、バイパスを交差して、自衛隊前に至る路線で熊本市の東部開発中心路線である。

#### 改良を完成させる。

#### ◎山鹿米原線 山鹿市

山鹿市管内は幅員二六・四メートル延長八二〇メートル、菊池市管内は幅員二二・四メートル延長一、〇一〇メートルいずれも阿蘇スカイライン、城北横断道路関連路線であり、市街地路線の貫通をはかる。

#### ◎八代港線 八代市

幅員二〇・四メートル延長七一〇メートル、八代港から国道三号線を直結する工業開発路線としての重要路線で、未改良区間を完成させ全線の整備をはかる。

### 生活環境の整備

#### 下水道の整備

都市施設のうち下水道施設は最も立ち遅れており、わが国の下水道普及率は現在二〇％であって、欧米先進国に比して著しく低い。下水道施設は排水、及び浸水、防止、水質保全、し尿処理を含めた衛生管理等、国民生活上重要な基礎施設である。都市人口の増加、産業の発展により益々下水道施設の整備が必要であり政府は第二次五カ年計画に大きく力を入れ、昭和四十六年度の整備目標を普及率三七・四〇(対市街地面積)、投資規模を第一次計画の二、四倍の、八、〇〇〇億円としている。

本県の下水道普及率は極めて低く、公共下水道施設を進めているのは熊本市だけである。

#### 都市公園の整備

公園や緑地は都市住民の休養、慰楽、散策や運動、レクリエーションの場としてまた、緑と光を与えて都市の風景を豊かにし、都市災害の防止と災害時の避難の場所となり、特に子供を交通禍から守る健全な遊戯の場として、近代都市にはなくてはならない重要な都市施設である。

都市公園の必要面積は都市人口一人当たり六平方メートルとなり、配置も住民の誘致距離の適当な範囲に散在することが必要である。本県の各市の現状は僅かに都市人口一人当たり一・八平方メートルで大幅